

第1回「山の日」記念全国大会関連行事

まつもとの名山Ⅰ

～美ヶ原の自然と歴史～



会 期：平成28年 **7月15日[金]～9月4日[日]**
開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
休 館 日：月曜日（月曜日が休日の場合はその翌日 ただし8月1日、8日、15日は開館）
会 場：**松本市山と自然博物館（アルプス公園内）**
2階常設展示室
観 覧 料：大人 個人300円（団体200円）
中学生以下無料



同時開催

山岳画家・武井真澄 先行公開展

松本市立博物館 1階ロビー

開館時間：午前8時30分～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
8月6日～8月16日は午前8時～午後6時
（入館は午後5時30分まで）
観 覧 料：大人200円（610円）
小・中学生100円（300円）
※（ ）内は国宝松本城との共通券 ※会期内無休



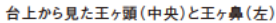
信濃国松本藩領大絵図（部分） 所蔵：松本城管理事務所

松本市山と自然博物館

〒390-0861 長野県松本市大字蝶ヶ崎2455-1
TEL/FAX 0263-38-0012

松本市立博物館

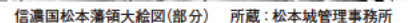
〒390-0873 長野県松本市丸の内4-1
TEL 0263-32-0133 FAX 0263-32-8974
URL <http://www.matsu-haku.com/>



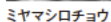
「山の日」記念全国大会(8月11日)と、信州山の日(7月24日)、信州山の月間(7月15日～8月14日)に合わせて開催する特別展です。松本市域には、深田久弥の『日本百名山』のうち6座があります。その中で、市民の暮らしとつながりが深く、また学校登山でもなじみのある美ヶ原をとりあげます。江戸時代から知られている美ヶ原の歴史・文化と自然についてふれ、戦後の観光・学校登山等を通して、美ヶ原の魅力を紹介します。

1 美ヶ原の歴史と文化

美ヶ原の名は江戸時代中期には知られていました。松本藩主の水野氏が享保9年(1724)に編纂した『信府統記』には、「此原は山上の平にて凡そ二三里に及へり」と記載され、『信濃国松本藩領大絵図』には「うつくしが原」の地名がみえます。



2 美ヶ原の自然

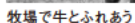


美ヶ原は植物の宝庫です。標高は2,000m前後ですが、気候や地形などの影響により、本来は標高2,500m以上に分布する高山植物が数多く生育しています。

また、台上の多くの部分は大正時代以降に牧場として利用されてきた半自然草原で、夏になると多くの花が咲くだけでなく、県内各地で数を減らしている貴重な植物や動物たちの姿を見ることができます。

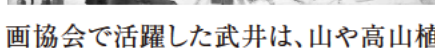
3 近代以降の美ヶ原の利用 登山・牧場・観光

大正時代になると美ヶ原で放牧が始まりました。現在も夏の間には多くの牛が放牧されています。昭和のはじめに山小屋が開設されると登山者が増え、昭和32年(1957)にバス道路が開通すると、美ヶ原は大変なにぎわいを見せました。



松本市立博物館 同時開催

山岳画家・武井真澱^{しんちょう} 先行公開展



武井真澄(1875～1957)は、諏訪市出身の山岳画家です。旧制松本中学校で図画教師として教鞭をとり、多くの作家を育てました。日本山岳会や日本山岳

画協会で活躍した武井は、山や高山植物を描いた多くの作品を残しています。
松本市立博物館では、平成24年(2012)度に、武井真激のご遺族から写生帳・
野帳などの資料群の提供を受けました。本展では、山の日にあわせ、現在整理中
の資料の一部を先行公開します。



松本市山と自然博物館

[バス] JR松本駅・バスターミナルから「アルプス公園線」終点下車、徒歩5分

〔車〕長野自動車道松本ICから約25分

松本市立博物館

[バス] JR松本駅からタウンスニーカー北コース「丸の内」
または「松本城・松本市役所」下車、徒歩約2分

[徒歩] JR松本駅から約15分

〔車〕長野自動車道松本ICから約15分